



topics



広報係

平成20年度特別訓練隊消防救助技術成果報告会

西消防署において消防救助技術訓練成果報告会を実施しました。

実施日：平成20年6月13日（金） AM10:00～

場 所：甲斐市竜王 3314-1 西消防署訓練場

「甲府地区消防本部特別訓練隊」とは？

都市災害の激増と複雑多様化に伴い、人命救助が最優先される現在、消防職員には高度にして専門的な救助技術の熟達が求められています。

この現実に対応するため、消防職員が平素鍛えた、高度な消防技術の成果を、相互に交換するとともに、防災連帯意識の高揚を図ることを目的として、毎年6月に開催される山梨県消防職員救助技術大会に出場するため、特別に編成された隊を言います。

大会は甲府地区消防本部を含め、県下10消防本部が出場し、個人・団体の計7種目を競います。

この日は、大会で上位入賞を目指す隊員が、連日の猛特訓の成果を報告しました。



多数の消防関係者や教育隊長以下教官が見守るなか、成果報告会が開始されました。



特別訓練隊35名が整列し、人員報告を行った後、副管理者(田中中央市長・角野昭和町長)ほか広域行政事務組合議会・山梨県消防協会・甲府地区支部・甲府防火協会・甲府地区消防本部の各代表による隊員の服装点検が行われました。

訓練開始

ロープブリッジ渡過(個人種目)

この種目は、県大会へ出場する隊員(2名)の選考を兼ねて実施されました。

地上8mに張られた、長さ20mの救助ロープの往路をセーラー渡り、復路をモンキー渡りで渡過しその安全確実性と所要時間を評価します。



◎セーラー渡り:左右のバランスを足でとりながら腕の力でロープの上を進みます。(写真左、下)

◎モンキー渡り:握力とかかとを使いロープの下を進みます。(写真右)
救助法の基本となるバランスと集中力が要求されます。



小林隊員

22.2 秒



田澤隊員

20.7 秒



早川隊員

17.9 秒



田名網隊員

18.3 秒

6月25日(水)の山梨県大会へは、早川・田名網の2名が選出されました。

昨年度の山梨県大会優勝タイムは、17.7秒でしたので好成績が期待されます。

ほふく救出(団体種目)

救助者(助ける人)2名・要救助者(助けられる人)1名の計3名で行います。

救助者2名は10メートル疾走し、空気呼吸器を着装して、両足首に確保ロープと小綱を結着した後長さ8メートルの煙道を検索、要救助者を発見して屋外に救出し、救助者2名が協力して安全地帯に搬送するまでの安全確実性と所要時間を評価します。 昨年度の山梨県優勝タイム41.3秒



今年度の注目は、県大会史上、初となる女性隊員の出場です。

兼松隊員(写真左)・丸茂隊員(写真右)



丸茂隊員(写真右)は、昨年から訓練を始め今年度は、レギュラー隊員として出場します。

技術体力共に男性隊員に負けない努力家です。



煙が充満する建物に進入して、逃げ遅れた人を救出する実戦的な訓練です。



この日のタイムは44.9秒でした。
丸茂隊員(左)・宮川隊員(中央)・兼松隊員(右)



県内の消防吏員1,108名のうち、女性吏員が4名います。その中で、オレンジの救助服を着て大会を目指す、ただ1人の女性隊員とことから、新聞やテレビなど報道関係者から注目されました。

ロープブリッジ救出(団体種目)

4名一組(救助者3名、要救助者1名)で行います。

搭上に張られたロープを隊員2名が渡し、隣の塔上の要救助者を救出した後、脱出するまでの安全
確実性と所要時間を評価します。

災害が発生したビルから、逃げ遅れた要救助者を隣のビル等を有効利用して、救出することを目的
とした訓練です。 昨年度の山梨県大会優勝タイム52秒



写真左から、秋山・川田・石原隊員



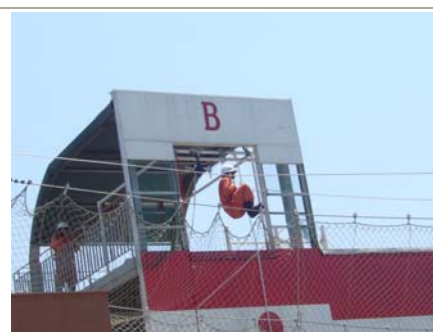
ロープ(小綱)とカラビナを装着して救出開始!



渡し方は、チロリアン渡過



救出ロープ搬送



要救助者(水上隊員)救出



要救助者を救出した後、脱出します。
この日のタイムは、49.3秒でした。
県大会への手応え十分と言ったところです。



隊員の素早い身のこなしと巧みな手さばきに参
観者は、緊張の注目から驚きの声に変わり子
供たちからは、歓声が上がりました。

ロープ応用登はん(団体種目)

2名一組で行います。

登はん者が塔の2m手前からスタートし、ロープに足を絡ませて補助者とタイミングを合わせながら登はんし、地上15メートルの到達点に到着するまでの安全確実性と所要時間を評価します。

昨年度の山梨県大会優勝タイム10. 2秒



登はん者は、集中して「準備よし！」
スターターの号砲を待つ緊張の瞬間です。



中込(上)・伊藤隊員
12. 0秒



清水(上)・塚田隊員
11. 8秒

はしご登はん(個人種目)

はしごの手前5メートルの位置からスタートし、自己確保ロープの結索を行なった後、15メートルの垂直はしごに登はんし、到達点に到着するまでの安全確実性と所要時間を評価します。

災害時、建築物に設置されている避難はしごを登って屋内進入することを目的として行う訓練です。

昨年度の山梨県大会優勝タイム14. 3秒



はしご手前で腰に命綱を
結索して、登はんします。



植村隊員
14. 7秒



廣瀬隊員
15. 7秒



小林隊員
15. 8秒

6月25日(水)の山梨県大会へは、植村・廣瀬隊員の2名が選出されました。

引揚救助(団体種目)

5名1組(救助者4名、要救助者1名)で行います。

塔上の2名が空気呼吸器を着装して塔下に至り、要救助者を検索、発見した後、「二人搬送」により救出し、他の2名と協力して塔上に引揚げた後、隊員2名が脱出するまでの、安全確実性と所要時間を評価します。

地下やマンホールなどの低い所から、要救助者を地上に救出することを目的とした訓練です。

昨年度の山梨県大会優勝タイム1分27秒



救助者(奥から)

岡田・宮崎・相川・中村隊員



この訓練は、技術はもとより、隊員同士の呼吸が重要となります。

要救助者(佐々木隊員)発見！

この日のタイム1分28秒

障害突破(団体種目)

5名1組(救助者4名、補助者1名)で行います。

4名がスタートして5カ所の設けられた障害(①3mの高塀、②7mのはしご、③10mの応急ブリッジ、④7mの壁面降下、⑤空気呼吸器着装、28mの煙道)を互いに協力して、救助者全員が突破するまでの安全確実性と所要時間を評価します。この種目は、救助の全てを凝縮した訓練で「技術と忍耐」が必要となります。

昨年度の山梨県大会の優勝タイム1分58秒



左から

緑川・田中・宮川・大森・秋山隊員



応急ブリッジ渡過

壁面降下

空気呼吸器を着装して煙道へ進入

煙道通過



救助訓練は、ロープやカラビナ操作をはじめ、器具の取扱いや隊員の行動にいたる全てについて「安全確実に行っているか」の審査をします。 この日のタイム1分39秒《県大会に期待します》

訓練終了



副管理者
角野昭和町長から訓示



広域行政事務組合議会
依田議長からあいさつ



甲府防火協会
坪井専務理事から激励



甲斐市立竜王南・竜王東保育園から激励の言葉をいただき、千羽鶴と花束が贈呈されました。



金丸教育隊長の決意表明



渡辺甲府地区消防長の講評

以上、成果報告会でした。